

平成 30 年度 第2次総合計画 施策マネジメントシート  
(平成 29 年度の実績評価)

作成日 平成 30 年 7 月 25 日  
更新日 平成 年 月 日

総合計画体系	政策No.	1	政策名	安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成	施策主管課	農林商工部 ユネスコエコパーク推進室
	施策No.	4	施策名	自然と共生する地域づくり	施策主管課長名	廣瀬 和弘
施策関連課名			政策推進課、環境課、みどり自然課、(管財契約課)			

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等 市民 事業所 自然環境 対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか) 豊かな自然資源の保全・活用への関心が高まる。 人と自然が調和した持続可能なまちづくりが行なわれる。 意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標
--	---

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画 現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
① 対象指標	ア 人口(外国人含む)	人	見込み値			72,322	72,001	71,680	71,359	71,038	
			実績値	72,963	72,715	72,305	72,018	71,880			
	イ 事業所数(経済センサス基礎調査)	事業所	見込み値			3,161	3,161	3,161	3,161	3,161	3,161
			実績値	3,161	3,161	3,161	3,161	3,161			
	ウ 市の面積	km <sup>2</sup>	見込み値			264.14	264.14	264.14	264.14	264.14	264.14
			実績値	264.07	264.14	264.14	264.14	264.14			
② まちづくり指標	A ユネスコエコパークの認知度	%	目標値			30.0	35.0	40.0	45.0	50.0	
			実績値	26.5	39.4	38.3	32.3	33.2			
	B 登山ガイド・自然ガイド認定登録者数	人	目標値			74	84	94	104	114	
			実績値	19	52	50	56	53			
	C 自然エネルギーの活用による発電量	kwh	目標値			1,089,400	1,115,900	1,142,400	1,168,900	1,195,000	
			実績値	980,130	1,166,528	1,134,105	1,056,491	945,500			
	D 公用車クリーンエネルギー化率	%	目標値			37.0	39.0	41.0	44.0	45.0	
			実績値	34.5	34.5	34.9	35.1	37.5			
	E		目標値								
			実績値								
まちづくり指標設定の考え方 【まちづくり指標の測定規格(アンケートか、統計か、数式など)】				<p>A: 自然との共生についての市民の認識を示す。 【市民アンケートの『あなたは、ユネスコエコパークについてご存知ですか』において、「知っている」と回答した人の割合】</p> <p>B: 自然環境の保全に関する取り組みを示す。 【①～③の合計 ①南アルプスガイドクラブ登録ガイド数(日本山岳ガイド協会公認ガイド[4月1日現在]) ②南アルプス市ネイチャーガイド協会における認定ガイド数 ③南アルプス市在住のNACS-J自然観察指導員登録者数】</p> <p>C: 新エネルギーの普及状況を示す。 【自然エネルギー活用による発電量(金山沢川発電所発電量+公共施設太陽光発電量)】</p> <p>D: 公共設備における環境負荷の低減を示す。 【全公用車のうち低公害車等の占める割合(低公害車等台数÷全公用車台数)】</p>							
目標値の設定の根拠(前提条件や考え方)				<p>A: エコパークの周知活動を推進し、5年間で約25%の増加を目指す。</p> <p>B: ①南アルプスガイドクラブ登録ガイド数はH31年まで現況の27人を維持し、②南アルプス市ネイチャーガイド協会における認定ガイド数は年間約10人の認定を目指し、③NACS-J自然観察指導員登録者数は現在認定されている12人の維持を目指す。(H25年度実績: ①0人+②9人+③10人=19人、H31目標値: ①27人+②75人+③12人=114人)</p> <p>C: H26年度に見込まれる発電量をもとに目標値を積算。基準値(H26)1,062,900kwh=金山沢発電想定量370,000kwh(740,000kwhの50%)+公共施設太陽光発電想定量692,900kwh 目標値の伸び率を年間実績に基づき2.5%と設定(H31基準値×12.5%=1,195,762kwh、H25年度実績値: 小水力発電338,880kwh+太陽光発電641,250kwh)</p> <p>D: 公用車の低公害車(燃費基準達成車・ハイブリット車・電気自動車等)の導入率。管財契約課の公用車更新計画をもとに算出。</p>							

3 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
関連事業本数	38	43	29	26	22	21	
関連事業予算額(単位:千円)	89,070	125,329	65,600	55,376	50,657	118,266	
(予算額の内訳)	国庫支出金	0	0	0	0	0	0
	県支出金	23,920	33,255	31	31	291	31
	地方債	0	14,100	0	0	0	16,600
	その他	6,473	30,583	19,710	20,515	11,906	21,096
	一般財源	58,677	47,391	45,859	34,830	38,460	80,539

#### 4 評価結果(施策の有効性評価)

<p>① 目標達成度評価(目標値と実績値との比較)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった</p>	<p>※左記の理由</p> <p>「自然エネルギーの活用による発電量」については、水力発電所の発電量が前年より166,280kwh減少した。</p> <p>また、「公用車クリーンエネルギー化率」は、目標に対し3.5ポイント下回ったものの、昨年より2.4ポイント上がった。</p> <p>ユネスコエコパークの認知度については前年より1ポイント上がったが、南アルプスの環境保全に対する課題調整が多く成果がみえづらい。</p>
<p>② 時系列比較(基本計画現況値からの推移)</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した</p>	<p>※左記の理由</p> <p>「自然エネルギーの活用による発電量」は、公共施設への太陽光発電を順次導入しているが、太陽光発電量、水力発電量ともに、その年の天候に左右される。</p> <p>登山ガイドや自然観察指導員については、一定の講習及び必要に応じて検定試験を受けなければならない、誰でも簡単に取得できる資格ではないことから伸び悩んでいる。市ネイチャーガイド協会は市から独立して自主的な活動が始まったばかりである。今後自主事業や民間を主体としたエコツーリズムへの参画が期待される。</p>
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <p><input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> ほぼ同水準である</p> <p><input type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である</p>	<p>※左記の理由</p> <p>太陽光発電の導入に加え、小水力発電の導入にも取り組んでいる。</p> <p>南アルプスユネスコエコパーク構成市町村における推進体制は、本市と静岡市、伊那市が専任部署を設置しているが、他市町村は観光・環境部署の一業務としての位置づけがほとんどである。</p> <p>国内では、宮崎県綾、福島県只見は専門職を採用。白山は協議会運営等地域に応じた運営を進めている。</p>
<p>④ 住民の期待する成果水準との比較</p> <p><input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> ほぼ同水準である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である</p>	<p>※左記の理由</p> <p>公共施設での発電量及び市民からの太陽光発電等の設置補助申請数は横ばい状態である。</p> <p>ユネスコエコパークは国際的な事業であるが、科学的な調査研究を重要視する傾向が見られるため、地域住民が参画しづらい。南アルプスでは高山帯におけるライチョウの保護等、平地での保護対策が具体的に見えないので市民への理解を求めることが難しい。</p>

#### 5 まとめ(課題の抽出とその解決に向けた取り組み)

施策の課題 (現状の問題点)	課題を解決し、施策の実現を図るための取り組み方針	
	課題解決の方向性	具体的な改善策・取り組み内容
<p>公共施設における太陽光発電所及び水力発電所は、経年劣化等で不具合が発生している。</p>	<p>各施設管理担当による適切な維持管理を徹底する。</p>	<p>年間を通じて適切な維持管理業務委託により状況を把握するとともに、不具合が生じた場合は、速やかな予算措置と対応に努める。</p>
<p>南アルプスに生息する希少な高山蝶の保護・保全</p>	<p>継続的な個体数の生息状況調査の実施と定期的なパトロールの実施。また登山者等への保護にかかる啓発活動。</p>	<p>現在、長野県境の北沢峠から山梨県側は法的な担保がなく、林道周辺で生息する高山蝶の採取が可能になっており、長野県側からも採取者が横行している。山梨県ではRDB(レッドデータブック)の改訂を機に、周辺地域で生息するクモマツマキチョウ等の高山蝶を種指定し保護のための条例を施行する予定。そのための普及啓発を現地において行う。</p>
<p>ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)は人間の活動によって地域の自然資源をどのように保全していくかの国際的なモデル地域であり、人材育成や自然環境保全活動等、その成果は時間を要することが多く見えづらい。また市民参加の場面が構築しづらい。</p>	<p>南アルプスの自然環境の状況を周知する啓発物の作成、配布と、大学教育機関や研究者及び市民との連携による地域の自然環境保全活動。</p>	<p>(1) 大学や県立高校との連携による保全活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山梨大学生命環境学部との森林環境保全活動、筑波大学院自然保護講座フィールドの提供。</li> <li>県立巨摩高校、白根高校の調査研究活動の支援と公開。</li> </ul> <p>(2) 国際社会への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JICA研修生の受け入れ、国内外からの視察受け入れ。</li> </ul> <p>(3) 市民活動フェスタでの普及活動</p> <p>(4) 南アルプス自然環境保全活用連携協議会や山梨県連絡協議会におけるPR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ラザウォークでのPR活動。</li> <li>イオン環境財団との連携によるショッピングモールでのPR活動。</li> </ul> <p>(5) 市ネイチャーガイド協会や南アルプスガイドクラブの自主運営の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トレッキング、エコツーリズム事業におけるガイドの活用</li> </ul>
<p>南アルプスユネスコエコパーク管理事務所である芦安山岳館の活用及び、緩衝地域のエコパ伊奈ヶ湖施設整備による普及啓発活動。</p>	<p>南アルプスユネスコエコパーク管理事務所である芦安山岳館の活用及び、緩衝地域のエコパ伊奈ヶ湖施設整備による普及啓発活動。</p>	<p>(1) 南アルプス芦安山岳館の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユネスコエコパークの資料展示、企画展の開催等。</li> </ul> <p>(2) エコパ伊奈ヶ湖における林間学校の受け入れや自然体験プログラムの充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民が参加できる事業や講座の開催。</li> </ul>